

NEXCO JHS312 適合資材
JWWA Z 108:2016(水道用資機材の浸出試験方法)適合品

ユニオングラウト

【 施 工 要 領 書 】

令和2年1月7日



二瀬窯業株式会社

特	長
---	---

1. 流動性・作業性が良好な為、施工部位が複雑な形状でも隅々まで隙間を充填することができます。
2. プリージングがなく、安定した無収縮性と接着性により、コンクリート躯体との一体化が実現されます。
3. 金属製骨材を使用していないセメント系材料なので錆の発生による変色がありません。
4. 初期及び長期強度とも安定した高強度が得られます。
5. プレミックス材ですので、規定量の水道水と温練りするだけで高品質な無収縮モルタルが得られます。

用	途	・	性	状
---	---	---	---	---

1. 荷 姿

25 kg/袋 紙袋

2. 用 途

機械基礎、構造物の基礎、橋梁の支承、逆巻工法、耐震補強工事 など

3. 練り混ぜ水量

水道水 4. 1～4. 9 L/袋

Jロート流下時間が規定値になるよう事前に試験練りを行い、水量を確認してください。

4. 練上がり量

約130 /袋

1 m³=約77袋

1. 下地処理

- ①コンクリート表面にレイタンス、汚れ、油分などがあれば全て取り除き、水洗い・清掃等を行って下さい
- ②ユニオングラウトの接地面には水打ちを行い湿潤状態とし、余分な水分は除去して下さい。
※下地コンクリート等の乾燥が著しい場合や、打設前の水湿しが難しい場合等は、吸水調整材（ユニレックス3 5倍希釈）の塗布を推奨します。

2. 型枠準備

- ①型枠は、ユニオングラウトの打設圧力に耐えられる構造とし、型枠の隙間からユニオングラウトが漏れないようにシーンを施して下さい。
- ②施工面積が大きくなる場合は、クラックの発生が懸念されるため、打設箇所を区切り、縁を切って打設する等、対策することをお勧めします。また、コンクリートと同様に誘発目地を設ける方法もあります。

3. 材料の混練

- ①練り混ぜ水量は所定の範囲（4. 1～4. 9ℓ /袋）で、Jロートの試験結果が規定値以内になるように混練りして下さい。
※水量は施工時の気温（季節）、材料や混練水の温度で変化するため、Jロートの試験結果が規定値になるよう事前に試験練りを行い、水量を確認してください。
- ②練り上がり温度が10～35℃以内になるように混練水・材料の温度管理を行ってください。
- ③1回の練り混ぜ量は、20分以内に使い切る量として下さい。
- ④練り混ぜ時間は1分30秒から2分間混練りし、3分以上の混練はしないで下さい。
- ⑤ハンドミキサーの場合、**1100回転以上**のミキサーを使用してください。

※異常膨張の恐れがあるため、ハンドミキサーの羽根や混練容器に**アルミ製のものは使用しない**で下さい。

4. 打設・充填

- ①打設方法は流し込み、ポンプによる圧入があります。
- ②流しこみは片側から連続打設して反対側からユニオングラウトがあふれ出るまで行うようにして下さい。
- ③ポンプによる打設は、最上部に空気抜きを設け、上面まで充填して下さい。
- ④打設完了後、表面の仕上げはユニオングラウトが締まってきたところを見計らい、コテ押さえをして仕上げして下さい。

5. 養生

- ①通風や直射日光は避け、必要に応じて屋内では開口部の閉鎖、屋外ではシートがけ等の養生を行って、急激な乾燥を防止してください
 - ②施工後、降雨・降雪のおそれがある時はシート掛けなどの養生などを行ってください
- ※急激な乾燥は硬化不良・ひび割れの原因になりますので、打設後1週間程度は打設面を湿潤状態に保つよう養生マット等で養生して下さい

注 意 事 項

- 1、製品の保管は、屋内の湿気の少ない場所で、パレット等に載せて床から離して下さい。
- 2、製品は製造年月日を確認して、3か月以内にご使用ください。
- 3、固まったものの使用は避けて下さい。
- 4、気温が5℃以下及び5℃以下になると予想される場合は、施工は行わないでください。
- 5、製品には練水の他、弊社指定する材料以外は混入しないで下さい。
- 6、製品のお取扱いに際しては、適切な保護具(保護手袋、保護メガネ、防塵マスク等)を着用のうえ適切な安全対策を実施して下さい。